

「浜松にある素材を有効活用して地域貢献ができれば」

光産業創成大学院大学の設立が 2005 年。私は、大学設立当初からこの大学に勤務していて、浜松に住んでいます。大学は、今年で創設 6 年目になりますが、多くの地元企業が出資してできた私立の大学です。ここは、学生さんが大学院生として勉強、研究するだけではなく、起業実践をする大学で、起業した会社を運営しながら、必要な技術を開発していきます。

ですから普通の大学のように実験室にこもるのではなく、学生さん達は外に出掛けていくことが多いですね。

私自身は今年の 2 月に起業しました。地元浜松の作物や海産物、林産物などから“色”と“香り”を抽出し、それを商品化して販売するという会社です。まだ具体的には、大量販売に至っていませんが、竹の香りや、いちご、かんきつ類の香りなど、地域にあるものを活用して四季を通して売っていかうという取り組みです。今ちょうど商品開発をしている最中です。開発したものを何に使うかというのと、例えば石鹼。抽出方法によっては、色と香りが一緒に抽出されます。それから、子供さん向けの色ペンや、染料にも活用したいと考えています。

今、日本国内でアロマセラピーが盛んに行われていますが、国産のものが少ないです。アロマセラピーは効果、効能が得られる香りのみですから、国産の材料を使って香りを作り、違う分野に応用しようと取り組んでいます。今はお茶から香りを抽出しようとしています。

このように地域にある物をどんどん使っていきたいと思っていますが、私が浜松に来ていなければ、起業をしていなかったと思います。浜松は、色々な特産物がありますし、色々な情報や素材がいっぱいあります。余っている地域素材を使って何とか売れるような仕組みを作れば、農林水産業者さんにお金が入るし、地域でお金が廻るようになります。結局、お互いに儲けることができれば、税金も納めることができるので、地域貢献、社会貢献になると思います。



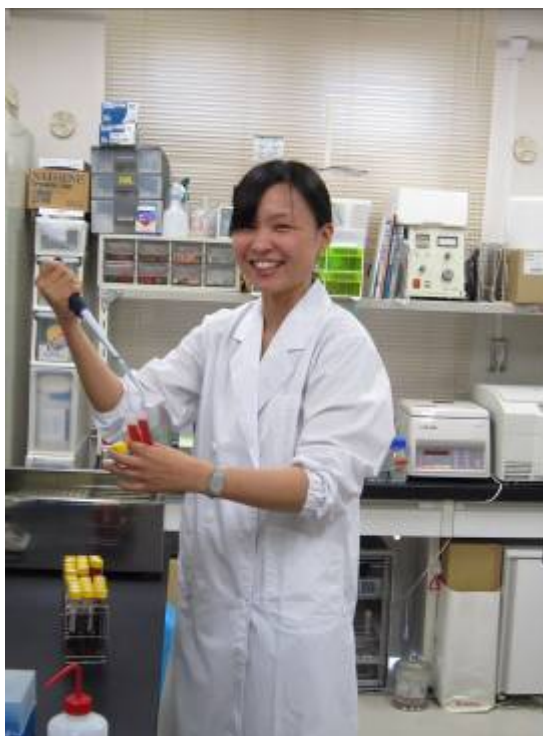
インタビューを受ける太田万理さん

「浜松は起業できる土壌。フロンティア精神が溢れています」

私は、今、大学の准教授と会社の代表をしていますが、会社のほうがある意味、自分を100%だせる場所かもしれないと思っています。自分の判断で、自分がいいと思ったことをベンチャーでは試すことができます。その代わり責任も自分が負うことになりますが・・・。

大学の研究は、自分も周りも成果を求めることが多いので、私の場合、こうやったら確実にこういう答えがでますというものを選択しがちです。

でも会社は、もう少しいろいろアイデアを出せる場所ですね。大学にいと出逢う人が限られてしましますが、会社をやっていると出逢う人の種類が変わってきて、いろいろな



人と関わりを持つようになるので今後は楽しみです。今は一人で会社をやっていますが、儲けが段々でるようであれば、複数の体制でやっていくということも考えています。

私自身、元々フロンティアスピリッツがあるタイプではありません。これは浜松という場所であるから、こういう起業ができているかもしれませんし、ここはフロンティア精神を持った人ばかりが集まっている大学なので、段々そういうことをやるのに抵抗がなくなっているのかもしれません。

私が起業したきっかけは、畑に使われなくなったものが落ちていたりとか、地元の林業の人の大変さだとか、地元のお茶の値段が低いとかという話を聞いて、そういうものを使って香料を作って売ればどうだろうと思ったのがきっかけです。

大学にいと、情報が多く入ってくるので、地域の問題を解決するために何か新しいものを作って役に立てればいいですし、自分がやってみたくなったんですね。商売をそんな簡単に始めてと、怒られそうですが、自分に出来ることを考えていたら、他の人がやらないことをやらないと、と思ったので、今の仕事を始めたというわけです。

静岡県は男女共同参画に熱心で、県の委員会に呼ばれたりすることがあります。この地域にいと、起業するにしても、女性に対してもサポートしてくれると感じますね。助成金はもちろん、何かをやろうとする時に応援してくれる体制がしっかりしています。「止めれば？」という感じは一切ありません。

浜松は、作物もよく育つし、交通の便もいいし、恵まれているので、地元の人があまり注目しないもの、使われていないものがたくさんあります。車でないと移動が難しいですが、基本的に住みやすいですよ。ここに来る前は東京に居ましたが、東京はやはり生活する上では、おもしろい場所ですが、結構不便だったり、人が多すぎたり……。この地域の方が住みやすいと思います。

「起業してから毎日新しい発見がある。それが楽しいですね」

私は、ずっと一人で研究していることが好きだと思っていました。でも今は、モチベーションを維持するにはどこかに人とのつながりがないとやっていけないと感じます。

そもそも研究は、わからないことを追求するものなので、私自身そういった未知への恐怖が人より薄いのかもしれません。会社の経営については無知ですが、実際に始めると経営とは何かは多少なりともわかってくるし、新しいアイデアを考えたり、色々と楽しいですね。「世の中はこうなっていたのか」という新しい発見が今年になって何度もあります。

浜松は、他の地域よりもサポートしてくれる体制があります。人もそうですが、環境も設備も整っているのが、この浜松という地域です。



大学の中には起業の事例が紹介されている